

自制心が薄れ暴走の果ての重大事故。被害者の悲しみ、そして全てを失っても生涯償い続け、生きていかなければならない加害者の苦悩を実際の事故に基づきドラマ化したものです。

交通安全映画

財団法人 全日本交通安全協会推薦

おべてを奪う 交通事故

— 償いの日々は果てしなく —



29分

■ 映画のねらい

車の運転は、一旦ハンドルを握ると、車という“一城”の主となり、自己本位になりがちである。

しかも車には、颯爽と走るカッコ良さ、スリルが生まれ、解放感から自制心が薄れる。

特に若者たちの多くが、この車の魅力に惹かれる。そして暴走は重大事故につながる。

事故を契機に人生は一変する。ハンドルを握ることは正に人生を握ることでもある。

映画は、実際の事故をモデルに、或る青年のハンドルと生きざまを通して、暴走の悲劇を絶対に起こしてはならない為の自覚を促し、ハンドルを握ることの厳しさと、責任の重さを、強く訴えている。

■あらすじ

○自制心を失い、暴走の果てに

商社に勤める永井一男（28才）は、支社の係長に栄転が決まり、同僚で婚約者の美知子と理佐、そして永井の幼なじみの篠田の3人と昇進祝いの一泊ドライブに行くことになった。

悲劇はその帰り道で起こった。

永井の運転する車の後ろに赤いスポーツカーが急接近し、煽ってきた。執拗に煽る後車に永井は段々と自制心を失っていく。「よし！」アクセルを目一杯踏み込み、100キロを超えるスピードでスポーツカーを振り切り、ほっとして視線をルームミラーから前方に移すと、目前に急カーブが迫っていた。車はガードレールを突き破り大破。

○あまりに大きな犠牲

病室で目を覚ました永井は、後席でシートベルトをしていなかった篠田が死亡、理佐は意識が戻らないと知らされ、愕然とする。

車外に投げ出され、頭から血を流しうめく篠田と理佐の姿が幾度も頭をよぎり、頭を抱える永井。

助手席でシートベルトをしていたため、軽症で済んだ美知子は、意識の戻らない理佐を病室に見舞い、理佐の祖母に会う。そこで美知子は理佐が美知子の結婚式に出席するのをとても楽しみにしていたこと、祖母が歩けなくなったら車椅子を押してあげる約束をしていたことを知る。

○母をも巻き込む苦悩と悔恨の日々

退院した永井は、母と篠田家を弔問に訪れるが、「帰れ、この人殺し！」と罵倒され、その場に泣き崩れる。

会社へ退院の報告に行った永井は、部長に行政処分が出るまでは現状のまま支社勤務をするように命ぜられ、今回の事故が取締役会の議題にもなることを告げられる。

やがて、保険会社の担当者から理佐が生涯意識が戻らなければ、賠償金額は死亡した篠田の分を合わせて、2億4千万になると告げられる。保険無制限

に入ってて良かったじゃないか、と言う母に永井は過失相殺され賠償金満額が出ないこと、更に理佐の家族や篠田家が納得できないと、示談にも応じてくれないことを話す。

やがて、保険会社との交渉の行き詰まりに業を煮やした篠田の父親が、家や会社に何度も電話をかけてくるようになる。

職場に気まずい雰囲気はただよう。

○すべてを奪う交通事故

母は或る決心を永井に告げる。亡くなった父親がようやく建ててくれた家だが、被害者の方に誠意を見せるために、売却して賠償金の不足分に充てようと言うのだ。「残された親の辛さ、悲しみは計り知れない、家を手放すことで相手の気持ちが少しでも和らぐことを期待するしかない」と話す母に、車に乗り慣れ過信していたことを悔い、取り返しのつかないことをしてしまったと、泣き崩れる永井。

引っ越しの日、ガランとした部屋で、亡き夫の遺影を胸に抱き、思いを馳せる母。

会社近くの歩道橋で待ち合わせる永井と美知子。

「もうすぐ検察庁に呼ばれる、その先が見えない、家も売った、会社だってクビになるかもしれない、出来れば待っていてほしい、結婚してほしい」と言う永井に美知子は、「理佐を見ていると辛い、自分だけ幸せになる気になれないの、結婚したら生涯篠田や理佐のことを思い出す、田舎に帰ってやり直したい」と別れを告げる。

茫然自失となり雑踏の中、立ち尽す永井。

○果てしない償いの日々

会社にもいづらくなり退社。すべてを失った永井は交通刑務所に収監された。しかし永井は生きていかなければならない、一生償い続けなければならないのだ。

事故を契機に人生は一変する、ハンドルを握ることとはまさに人生を握ることでもある。

出 演				ス タ ッ フ			
田 中 実	松 永 レ イ	赤 間 麻 里 子	企 画	村 山 祐 治	撮 影	上 村 四 四 六	
岩 本 多 代	平 井 真 軌	鈴 木 理 恵 子	製 作	村 山 治 久	照 明	小 野 勇	
梅 津 栄	新 城 彰	花 村 さ や か	脚 本	村 山 新 治	音 楽	深 澤 康 雄	
	三 田 村 慎	神 田 時 枝	監 督	笠 倉 隆	録 音	福 島 音 響	

・お問合せ・お申込みは

(映) 有限会社 博映商事

TEL 092-741-0306 FAX 092-741-6628

〒810-0073 福岡市中央区舞鶴1-3-31-220

【HP】 <http://hakuei-shoji.jp>

【E-Mail】 info@hakuei-shoji.jp